

経営比較分析表（平成28年度決算）

神奈川県横浜市 市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	民間企業出身者
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	33	対象	ド透1未訓ガ	救臨が感災地
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
3,735,843	42,124	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

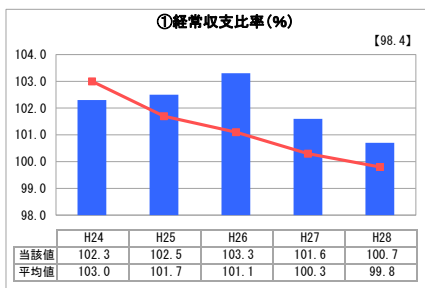
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
624	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	26	650
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
624	-	624

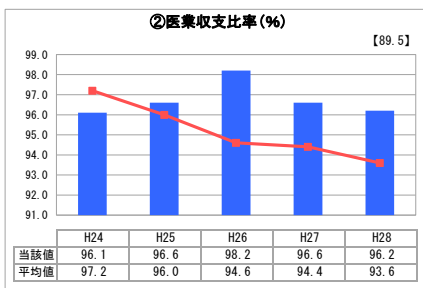
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

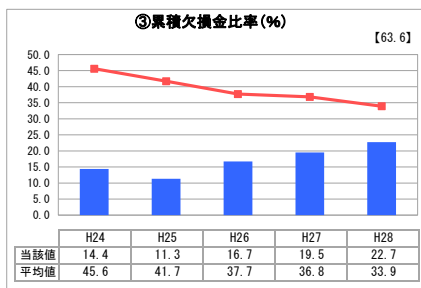
1. 経営の健全性・効率性



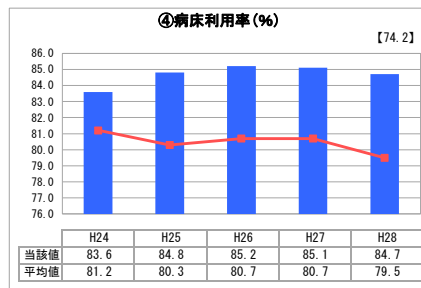
「経常損益」



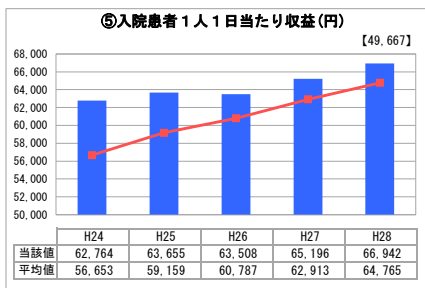
「医業損益」



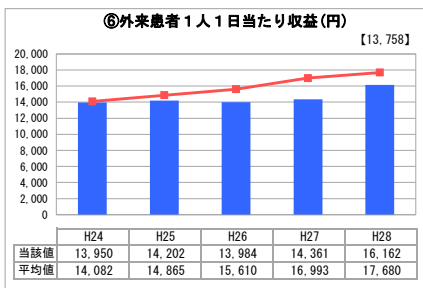
「累積欠損」



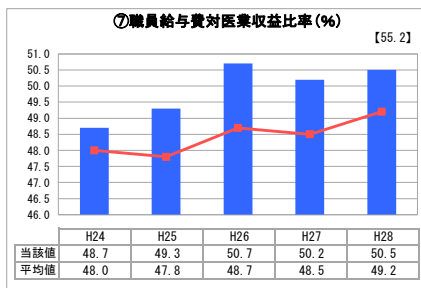
「施設の効率性」



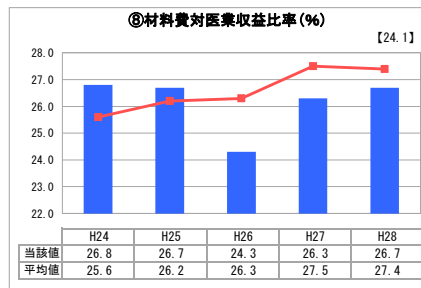
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

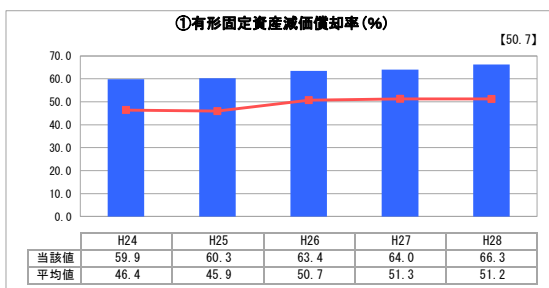


「費用の効率性①」

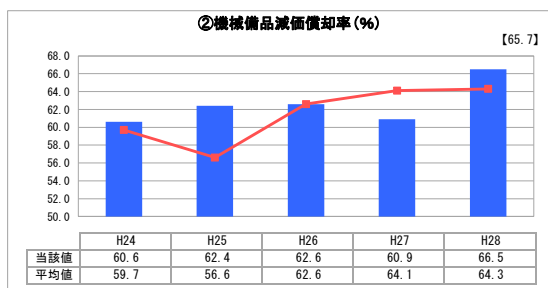


「費用の効率性②」

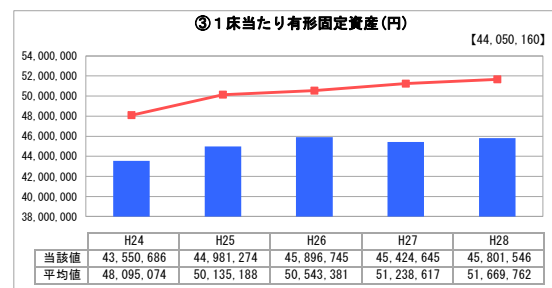
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

急性期を中心とした総合的な病院であり、「がん」「救急」「周産期」「感染症」「災害医療」等、地域から必要とされる政策的医療及び高度急性期医療に積極的に取り組んでいます。将来にわたって地域医療のリーディングホスピタルであるために、より一層の医療機能の充実・強化を図りながら、良質で先進的な医療を提供してまいります。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「入院患者1人当たりの収益」及び「外来患者1人当たりの収益」は近年増加傾向にあり、医業収益自体も年々増加しています。その一方で、医業収益比率や経常収益比率は横ばいもしくは低下傾向にあることから、他の公立病院と同様に、増収・減益傾向となっています。とりわけ、恒常的な費用である職員給与費及び材料費の動向を示す「職員給与対医業収益比率」「材料費対医業収益比率」が、横ばいもしくは上昇していることを見ると、今後の経営に当たっては、これらの費用をいかに抑制できるかがポイントとなってきます。業務の効率化による超過勤務の抑制、共同購入の推進や品目数の削減など更なる経営改善を進めていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

施設全体の老朽化の状況を示す「有形資産減価償却率」を見ると、平成28年度末で、66.3%となっており平均値と比較しても10%以上の乖離があります。事実、現在の市民病院は、老朽化及び狭小化が進んでおり、手術待ちの期間が長期化していることなどを考えると「良質で先進的な医療を提供すること」「総合的な市立病院として患者にあらゆる医療ニーズ応えること」といった本院の使命を十二分に果たしているとは言えない状況となっています。そういった課題を解決するため、現在、新病院の建設を進めており、平成32年開院が待たれる状況となっています。

全体総括

経営面において、費用の抑制等の課題は残るものの、総合的に見れば、平成28年度決算においても経営黒字を達しており、現在は良好な経営状況と言えます。しかしながら、新病院建設後は、減価償却費等の負担増による収支の悪化が見込まれており、再整備事業に関する建設改良費の負担を少しでも軽減するため、引き続き経営改善に努めていく必要があります。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。